

遠近各地より、たくさんのおじい様やおばあ様が、幼稚園に来て下さいました。まだまだお若いおじい様やおばあ様、いっしょに歌を歌ったり、手遊びをしたり、たくさん拍手で子どもたちをほめてくださったり、元気一杯に過ごして下さいました。

年長組(さくら組、きく組)は、本堂で 一生懸命に覚えた「祇園精舎の鐘の声・・・」を発表し、お返しに、おじい様おばあ様が、『枕草子』の「春は あげぼの～」を読んできかせて下さいました。お互いが「とても上手にできたね。」と拍手、拍手でほめあいました。

年中組(わかば組、つぼみ組)は、ふれあい遊びの中で、他のお友達の祖父母の方とも遊んでもらいました。ちょっぴり恥ずかしそうな子どもたちにも、やさしく声をかけていただき、遊びに さそって下さいました。先生の質問にも子どもたちより元気よく答えて下さっていました。

年少組(ふたば組)も、おじい様 おばあ様の前に立って 上手に歌を歌ってくれました。先生に名前を呼ばれた時は、元気よく「はいっ」と返事ができて、たくさんごほうびの拍手をもらっていました。恥ずかしくて、小さな声でしかお返事できなかった人にも、たくさん拍手をして下さいました。

ご本堂では、園長先生が、以下のようなお話をされました。

『子どもをダメにしてしまう方法をご存知ですか？ とても簡単な事です。好きな物、ほしがる物を何でも買って与えてやる事です。 そうではなくて、子どもたちの心の支えになってくれる おじいちゃん おばあちゃんになってあげてほしいと思います。

人生は、楽なこと楽しいことばかりではありません。また、縁にあうと、人は、何をしてしまうかわかりません。 **－自分を育てるのは自分－** 失敗をしないように お膳立てをしてやっても、苦悩を即座にとりのぞいてあげても、それは、一時的な逃げ道にしかすぎず その子の為にはならないのです。

苦悩を乗り越えていく手立ては、学力でも財力でもありません。その子にしっかり寄り添って、話を聞いてくれる人がいること。このことは、どんなに心強いことでしょう。 そして、一つずつ乗り越えられた困難は、その子にとって、きっと立派な勲章となっていくことでしょう。

人は、迷惑をかけずには生きていくことはできません。私たちは『人に迷惑をかけない子ども』ではなく『人のために生きていくことのできる子ども、人の苦しみ、悩みを感じ、助けてあげられる子ども』を育てていきたいと願っています。

日々仏さまに手を合わす生活の中で、仏さまのお話を聞かせていただく中で、そんな優しい心が育まれていくことを願っております。

本日は、ようこそおいで下さいました。ありがとうございました。』